

学科名	経営ビジネス学科						
科目名	比較文化論						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	水4		
必修・選択の別	選択						
担当者	岡 宏						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化とは何かについて説明できる。 ・日欧における「身体観・死生観」について、その相違を説明できる。 ・差異性をコンフリクトではなく、協調性への手段として説明できる。 						
内容	09月16日	第1回: 導入講義(講義の進め方と概要、成績評価について)、「文化の定義」 第2回: 課題映像『白い花はなぜ白い』 第3回: 和辻哲郎の人間観 第4回: G・W・ヘーゲルの家族論 第5回: 和辻哲郎の家族論 第6回: 死の人称性①(ウラジーミル・ジャンケレビッチ) 第7回: 死の人称性②(生老病死すべてのち/シュリー・マーラー) 第8回: 『糸』の人間観と世界観 第9回: 『明日なき我等』より「衆生」の意味 第10回: 『だいじょうぶだよ、ゾウさん』 第11回: 『わすれられないおくりもの』 第12回: 『写真絵本』「蓮ちゃんはじめての看取り」 第13回: 死別ケアビリーブメントケアとグリーフワークにみる比較考察(イギリス・アメリカと日本) 第14回: 子どものいのちを考える(児童虐待対応についての日米比較) 第15回: 比較文化論の課題と展望					定期試験
成績評価基準	定期試験(50%)、講義中試験(30%)、課題(20%)の成績を総計して評価点とする。						
授業到達目標の達成度	「文化とは何かについて説明できる。」受講学生の殆どが概ね説明できていた。 「日欧における「身体観・死生観」について、その相違を説明できる。」ほぼ理解できていたといえる。 「人間観、家族観、世界観を文献や事例を交えながら考察してきたが、積極的に講義に取り組み概ね説明できている。」受講学生の理解は概ね良好である。						
反省点	文化定義の多様性を紹介しつつ、人間理解の視点を基軸に文化形成過程の考察を行った。概ね思惑的に文化の概念を理解する糸口に達することは出来たと思う。残念なことは、時間の関係上、文化の多様性について、さらに踏み込んだ事例検討へと進めなかった。より広範囲な独自の思索へと展開できるように今後の課題である。						
来年度の計画	授業計画は、刷新する予定で、反省点での記述を改善するための文化の事例検討を考えてみたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合的に見て、特に問題はないと思われる。ここ数年、学生の満足は向上しており、良い傾向である。これに慢心することなく、さらにより良い講義の展開を考えたい。						
履修登録者数	49名	定期試験 受験者数	36名	合格者数	36名	合格率	100%